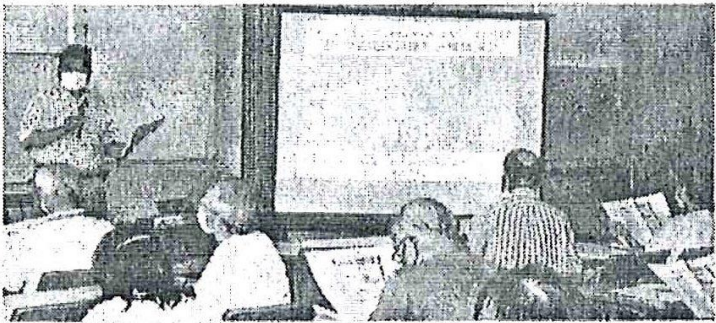


静岡・三島駅南口東街区再開発 中止求め市民が勉強会

静岡県三島市で16日夜、住民合意のない三島駅南口東街区の再開発事業の見直し、中止を求める勉強会が行われました。市商工会議所の会議室には約70人が参加し、インターネット配信もされました。主催はNPO法人グラウンドワーク三島、住みよい三島をつくるみんなの会(日本共産党も参加)です。

再開発事業は高さ91メートルの高層マンションや商業施設などを建設する計画で、2025年完成予定。総事業費は約210億円(市は56億円負担)。市は9月に都市計画決定に入るとしています。

区画整理・再開発対策全国連絡会議の遠藤



渡辺氏の問題提起を聞く参加者 16日、三島市

哲人事務局長(インターネット参加)が問題提起し、補助金が90億円投入され大企業のデベロッパーがもうける仕組みだと説明。「市有地を放出してマンション事業を支えることが社会の公共、幸福の

ために必要なのか。コロナ危機であらゆる事業が見直しを迫られている。まちづくりを民主的に考えることこそ、市長がすべきこと」と訴えました。

グラウンドワーク三島の渡辺豊博専務理事は、見通しの甘い過剰投資であり、時代遅れの危険性の高い「密」の施策だと批判。水をいかけた回遊性あるまちづくりなど、「疎」へ移行すべきだと強調し、事業の延期・見直し・凍結・中止へ、1万人署名運動を展開していきたいと提起しました。

みんなの会から、再開発の是非を問う住民投票運動も提起されました。